

令和7年度 農業技術センター試験研究成果検討会のご案内

当センターの業務運営につきましては、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さてこの度、当センターの研究成果を紹介し、広く皆様からご意見を頂くため、下記のとおり検討会（発表会）を開催いたします。一般の方もご参加いただけますので、ぜひお越しください。なお、参加は無料です。

参加を希望される方は、準備の都合上、別紙（出席申込書）により、2月18日（水）までに、当センター（FAX：058-239-3139、Email：c24401@pref.gifu.lg.jp）まで連絡くださいますようお願いします。

※お知らせいただいた個人情報は、当検討会のためだけに使用し、他の目的には使用いたしません。

記

1 日 時 令和8年2月26日（木） 13：30～16：30
(受付は13：00から)

2 場 所 岐阜市又丸729-1
岐阜県農業技術センター 3階講堂

3 発表課題 別紙（開催要領および発表要旨）のとおり

※ 駐車場に限りがあるため、お車でお越しの際は、できるだけ乗り合わせをお願いします。

4 お問い合わせ先
(担当者)
病理昆虫部長 堀之内（TEL 058-239-3131 内線 213）

(別紙)

令和7年度 農業技術センター試験研究成果検討会 開催要領

1 目的

農業技術センターの研究成果を広く周知し、関係機関より意見を頂き、今後の研究の内容・成果につなげる。

2 開催日時および場所

令和8年2月26日（木） 13時30分～16時30分
岐阜県農業技術センター 3階 講堂 （岐阜市又丸729-1）

3 日程及び発表内容

- (1) 受付（13：00）～ 1階ロビー
- (2) 開会・挨拶（13：30～13：40）
- (3) 研究成果発表・検討（13：40～16：25）※発表15分、質疑5分
 - ① プラスチックを使用しない肥料での水稻栽培に向けて－ノンプラ肥料からの窒素の溶出把握（和田主任専門研究員）
 - ② プラスチックを使用しない肥料での水稻栽培に向けて－水稻栽培での利用時の課題と対応（小椋主任研究員）
 - ③ 交信攪乱剤（性フェロモン）によるカキの主要害虫フジコナカイガラムシの防除（妙楽専門研究員）
—休憩・展示—（ポスター説明など）
 - ④ 深層学習によるカキの日持ち性判定AI装置の開発（林専門研究員）
 - ⑤ 「ねおスイート（天下富舞®）」の技術確立に向けた現地の取組（農業経営課 西垣係長）
 - ⑥ フランネルフラワーにおける開花促進剤を用いた開花調節技術の開発（福田主任専門研究員）
 - ⑦ トマトの栽培環境データを用いた生育状態の数値化（前田主任専門研究員）
- (4) 閉会・挨拶（16：25～16：30）

◇令和7年度試験研究成果検討会発表要旨

1 プラスチックを使用しない肥料での水稻栽培に向けて－ノンプラ肥料からの窒素の溶出把握－

【土壤化学部 和田 異】

プラスチックを使用した被覆肥料のは場外への流出が懸念される中、これらに頼らない施肥技術の確立が求められている。本報では、既存のプラスチックを使用しない緩効性窒素肥料（ノンプラ肥料）数種類を用いて、水田は場での埋設試験により水稻栽培期間中の窒素の溶出パターンを把握するとともに、プラスチックを使用した被覆肥料との比較により窒素の溶出特性を明らかにしたので、これらについて報告する。

2 プラスチックを使用しない肥料での水稻栽培に向けて－水稻栽培での利用時の課題と対応－

【作物部 小椋 正大】

前報で窒素の溶出特性を把握した緩効性窒素肥料（ノンプラ肥料）を用いた場合の水稻の生育や収量、品質への影響を評価し、水稻栽培での利用時の課題を整理した。あわせて、水稻栽培でのプラスチック使用量の削減に向けた短期的な対応策のひとつである被覆肥料の減プラ銘柄の利用についても、窒素の溶出特性と水稻の生育や収量等への影響を明らかにしたので、これらについて報告する。

3 交信攪乱剤（性フェロモン）によるカキの主要害虫フジコナカイガラムシの防除

【病理昆虫部 妙楽 崇】

フジコナカイガラムシは、化学農薬による防除が難しいカキの主要害虫である。これまでカキの各種害虫に対する省力化防除技術に関する研究の取組みの中で、県内のカキ産地で実施した試験により、交信攪乱剤（性フェロモン）を用いたフジコナカイガラムシの防除効果を確認してきた。試験に用いた交信攪乱剤は、令和7年12月に「フジコナコン[®]」として農薬登録され、近く販売されることから、本剤の防除効果や使用方法等について報告する。

4 深層学習によるカキの日持ち性判定AI装置の開発

【果樹・農産物利用部 林 秀輔】

果実の選果選別は、有利販売やブランド化を進める上で非常に重要なプロセスである。昨今カキでは「早期軟化」果実の混入が大きな問題となっており、生産現場や流通関係者からは軟化判別を可能とする選果技術の開発が求められている。また今後の輸出促進のためには日持ち性の長い果実を判別する必要もある。そこで、深層学習によりカキの日持ち性を判定の可否を検討するとともに、生産現場で利用可能な装置開発を行った。

5 「ねおスイート（天下富舞[®]）」の技術確立に向けた現地の取組

【農業経営課園芸技術支援係 西垣 孝】

本県オリジナル柿品種である「ねおスイート」は、平均糖度が20%を超える高糖度で良好な食味の10月下旬～11月上旬に収穫できる中生品種であり、JA全農岐阜により高級ブランド柿「天下富舞[®]」として販売されている。しかし、「ねおスイート」は栽培方法が確立されておらず、安定生産のための課題が多い。そこで、生産者や関係機関と連携し、課題解決のための現地調査や技術研修会を実施し、生産量拡大、ブランド確立に向け取り組んできた。

6 フランネルフラワーにおける開花促進剤を用いた開花調節技術の開発

【花き部 福田 富幸】

当所育成のフランネルフラワーは、切花及び鉢花の用途で利用されており、本県オリジナル品目として品質が優れ、主に春期と秋冬期に出荷できるため、市場から高い評価を得ている。しかし、気象条件等により秋冬期の計画的な出荷販売が不安定となる場合があり、有利販売ができない状況となっている。そこで、秋冬期の需要期に出荷調整が可能となる開花促進剤を用いた開花調整並びに品質向上技術を開発したので報告する。

7 トマトの栽培環境データを用いた生育状態の数値化

【野菜部 前田 健】

冬春トマトの生産現場では生育調査を行い、その状態を評価する取り組みが進められている。しかし、生育情報の自動取得はあまり進んでおらず、依然として手計測が主流である。一方、オランダでは光と温度の比を用い、適切なバランスを維持することで高い生産性を実現している。そこで、環境データを活用することで植物の生育状態を推定し、栽培管理に役立てる可能性について検討したので、その結果について報告する。

(別紙)

令和7年度農業技術センター試験研究成果検討会 出席申込書

岐阜県農業技術センター 宛

FAX : 058-239-3139

E-mail : c24401@pref.gifu.lg.jp

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1

所 属	職 名	氏 名

*できる限り機関ごとにとりまとめの上、電子メール、FAX、郵送のいずれかでお申し込みください。

*なお、収容人数を超えた場合には、ご希望に添えないこともございますのでご了承ください。

申込期限：令和8年2月18日（水）